

医療被ばく研究情報ネットワーク

第四回総会 議事次第

日 時 : 2013年1月15日(火) 14:00～16:00

場 所 : UDX Gallery 4F NEXT-2 (東京)

参加予定者 : (資料6参照)

議 題 :

1. 議事録確認
2. 会則案
3. 活動報告
4. 各学会報告
5. 国際動向
6. その他

配付資料 :

1. 第三回全体会議議事録
2. 会則案
3. 活動報告
4. 各学会報告
5. 国際動向
6. 参加予定者

1. 医療被ばく研究情報ネットワーク
第三回全体会議 議事録

1. 日 時 : 2012年4月14日(土) 16:00~17:30
2. 場 所 : パシフィコ横浜 国立大ホール N101 (横浜)
3. 参加者 : (別添)

4. 議題

- (1) 議事録確認
- (2) 規約案
- (3) 活動報告
- (4) 今年度活動計画
- (5) ワーキンググループ
- (6) 各学会報告
- (7) 国際動向
- (8) 福島対応
- (9) その他

5. 配付資料

- (1) 第二回全体会議議事録
- (2) 規約案
- (3) 活動報告
- (4) 今年度活動計画
- (5) ワーキンググループ
- (6) 各学会報告
- (7) 国際動向
- (8) 福島対応
- (9) 参加予定者

6. 議事

- (1) 議事録確認

第二回全体会議の議事録が確認された。

(2) 規約案

医療被ばくに関する研究情報の共有と国際対応を J-RIME の主な目的とする。個人会員の扱いについては会議の決議方法とも関係するといった意見もあったが、J-RIME の主な活動目的は情報共有であり、組織として意向決定を行う機会は少ないと予想されることから、『専門の学識、技術又は経験を有する者』を個人会員として認めることとした。なお会則の検討中ではあるが、第 8 条に基づき、本総会において、J-RIME の代表に放射線医学総合研究所理事長米倉義晴氏が選出された。本総会で議論された会則の修正については、メール等で確認し、決定することとした。

(3) 活動報告

第三回全体会議は 2011 年度内開催が予定されていたが、JRC2012 期間中開催にし、多数のオブザーバ参加により、広く議論する場を設けることとし、4 月 14 日の開催となった。また、メーリングリストに情報を流していること、ホームページが作成中であることが報告された。また、サブグループ活動として、小児の医療被ばくに関するサブグループ活動として、国立成育医療研究センターと放医研で、千葉子ども病院の協力も得て、小児の放射線診療の実態調査・線量評価の計画を共同で策定中であるとの報告があった。また、ニュースレター「らいむらいと」第 2 号が 12 月に発刊された。

(4) 今年度活動計画

4 つのワーキンググループ(WG) が新たに設置されることになった(次項に記載)。患者放射線診療履歴追跡システムに関して、医療データを全て統一的データベースにしようとするアメリカの動きや、CT や IVR の線量情報収集の現状について紹介された。一方で、データベース作成上の問題点として、手技についての表現が各病院・施設間で異なっているので読替え作業が必要という指摘があった。

(5) ワーキンググループ

次の 4 つのワーキンググループの設置が提案され、承認された。

小児防護 WG :

- ◎宮崎 治 (成育医療センター)
- 正木英一 (成育医療センター)
- 島田義也 (放医研)
- 赤羽恵一 (放医研)
- 核医学会からの被推薦者

Smart Card WG :

- ◎島田義也(放医研)
- 赤羽恵一 (放医研)
- 奥田保男(放医研)
- 大野和子 (京都医療科学大学)
- JIRA や放射線技師会からの被推薦者

実態調査 WG

- ◎赤羽恵一 (放医研)
- 山口一郎 (保健医療科学院)
- 会員からの被推薦者

広報 WG

- 唐澤久美子 (放医研)
- 大野和子 (京都医療科学大学)

(6) 各学会報告

- ・ 日本放射線技師会： あらためて全国実態調査を実施した。また放射線被ばく個別相談センターWeb と電話) を立ち上げた。
- ・ 医学物理学会： 福島対応 WG を設置した。Web で医療被ばくに関するスライドを提供している。
- ・ 日本核医学会： 線量計普及と関連して、検査の説明書作成を行ったり、患者の退出基準やおむつ廃棄に関する情報を提供している。
- ・ 日本核医学技術学会： 新たに放射線防護管理に関する調査検討委員会を設置し、他学会と連携した活動を行っている。
- ・ 日本歯科放射線学会： 大学病院を中心にコーンビーム CT の使用状況に関するアンケート調査を行う予定である。
- ・ 日本放射線影響学会： 新たに震災対応委員会を立ち上げ、Web 上での Q&A

対応や地元住民との対話型講演会を行っている。

- ・ 放射線技術学会防護分科会： 公開講座の実施や福島県伊達市への専門家派遣、HP 上での情報公開等を行っている。
- ・ 放射線腫瘍学会： 事故照射報告を HP 上で公開した。
- ・ 医療放射線防護連絡協議会： 年次大会、フォーラム、管理講習会等を実施した。しかし現場の教育が手薄になりがちといった問題がある。
- ・ 画像医療システム工業会： 新たに放射線線量委員会を設置した。

(7) 国際動向

- ・ ICRP： 第3委員会内に新規 Task Group (TG85~TG89) が発足した。
 - ・ 新しい放射線技術による2次がんリスク
 - ・ 健康な人に対する電離放射線を使う正当化
 - ・ 陽子線、炭素線（重粒子線）を用いた放射線治療における放射線防護
 - ・ コーンビーム CT における放射線防護
 - ・ 小線源治療における放射線防護
- ・ UNSCEAR： 2013年5月に福島原発事故の最終報告を行うため、国内情報を収集している。
- ・ IAEA： Smart Card に関する会議や国際基本安全基準（BSS）改訂が、様々な国際機関との協力において行われている。
- ・ WHO： Global Initiative が動いており、担当者から日本にもコンタクトがあった。
- ・ その他： ISO ではリニアックのシンストレーションに関して基準を作ろうという動きがある。OECD の放射線防護公衆衛生委員会や NCRP でも重要な課題として医療被ばくが取り上げられている。

(8) 福島対応（今後の取り組み）

福島原発事故に関連して医療被ばくへの懸念が高まっている。そこで各学会の共同声明として、J-RIME が見解を発表してはどうかという提案があった。しかし学会としては意見のとりまとめが難しく、団体としての承認が容易ではないと意見があり、引き続きメールで意見を求めることとした。今後の活動のためには、会費徴収が必要ではないかという意見があったが、当面、放医研の予算から活動費を支出することとした。

参加者（一部オブザーバ参加）

文部科学省：	永田充生 様（放射線安全企画官）
大分県立看護科学大学：	小野孝二 先生
東京医療保健大学：	伴 信彦 先生（UNSCEAR国内対応委員会委員）
国立保健医療科学院：	樺田尚樹 先生・山口一郎 先生
日本放射線技師会：	北村善明 先生（常務理事：調整中）
日本医学放射線学会：	中村仁信 先生（放射線防護委員会委員長）
日本放射線技術学会：	五十嵐隆之先生・竹井泰孝先生・広藤喜章先生 藤淵俊王先生・加藤英幸先生・鈴木昇一先生 松原孝裕先生（防護分科会委員）
日本核医学会：	本田憲業 先生（放射線防護委員会委員長）
日本放射線腫瘍学会：	伊丹 純 先生（医療安全委員会委員長）
日本放射線影響学会：	三浦雅彦 先生（学会幹事）
日本小児放射線学会：	宮寄 治 先生
日本歯科放射線学会：	岩井一男 先生（防護委員会委員）
日本医学物理学会：	西川慶一先生・小泉雅彦先生・盛武 敬先生 （防護委員会委員）
日本核医学技術学会：	渡邊 浩 先生（理事長）
医療放射線防護連絡協議会：	大野和子 先生（理事、企画・実行委員長）
日本画像医療システム工業会：	岩永明男 専務理事 伊藤友洋 放射線・線量委員会委員長 古川 浩 様、大前徳宏 様
放射線医学総合研究所	米倉義晴 理事長 放射線防護研究センター 酒井一夫・米原英典・吉永信治・神田玲子 重粒子医科学センター 唐澤久美子・米内俊祐・奥田保男・村山秀雄 神立 進・尾松徳彦・尾松美香・向井まさみ 緊急被ばく医療研究センター 立崎英夫 医療被ばく研究プロジェクト

島田義也・赤羽恵一・小原 哲・青天目州晶

その他 25 名の参加

医療被ばく研究情報ネットワーク（J-RIME）会則（案）

第 1 章 総則

（名称）

第 1 条 本組織は、医療被ばく研究情報ネットワークと称する。その英文名は、Japan Network for Research and Information on Medical Exposure（略称 J-RIME）とする。

第 2 章 目的及び事業

（目的）

第 2 条 医療被ばくの実態及び医療放射線防護に関連ある研究情報の収集及び共有化をはかり、国内外の医療被ばく研究の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第 3 条 前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- （1）総会、研究会等の開催
- （2）医療被ばく関連の研究情報の収集・共有・公開に関すること
- （3）医療被ばく関連の国際機関への対応に関すること。
- （4）機関誌の刊行
- （5）国内外の関連学協会及び団体との協力及び連携活動
- （6）その他、この組織の目的を達成するために必要な事業

第 3 章 会員

（構成員）

第 4 条 この組織に、次の会員を置く。

- （1）団体会員 この組織の目的に賛同し、この組織の対象とする領域において専門の学識、技術又は経験を有する団体
 - （2）個人会員 この組織の目的に賛同し、この組織の対象とする領域において専門の学識、技術又は経験を有する者
- （会員資格の取得）

第5条 この組織の目的に賛同する団体又は個人は、総会における承認により、会員資格を得る。

(会員資格の喪失)

第6条 会員は、次のいずれかに該当するときは、その資格を喪失する。

(1) 退会した時

(2) 当該会員の団体が解散し、又は個人が死亡した時

(3) 総会で決議された時

第4章 役員、運営

(代表)

第7条 この組織に、代表1名を置く。

(代表の選任)

第8条 代表は総会において選出される。

(代表の任期)

第9条 代表の任期は2年とし、再任を妨げない。

(ワーキンググループ)

第10条 この組織の事業を実施するために、ワーキンググループを設置できる。

(事務局)

第11条 本組織の事務局を放射線医学総合研究所内に置く。

第5章 総会

(構成)

第12条 総会は、すべての会員をもって構成する。代表は必要に応じて、この組織の目的に賛同し、この組織の対象とする領域において専門の学識、技術又は経験を有する、会員でない者又は団体に、出席を依頼できる。

(開催)

第13条 総会は、定時総会として年に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第14条 総会は、代表が招集する。会員は、代表に対し、総会の目的である事項及び招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。

第6章 その他

(規約の変更)

第15条 この規約は、総会の決議によって変更することができる。

メール投票結果：

9組織（12名）が○、1組織が「改正が必要」

「改正が必要」のご意見

今回の会則案が本年4月の第3回全体会議での意見交換を踏まえたほぼ最終案に近い形での確認というステージを考えれば、テニオハ的なコメントは差し控えたいと思います。

但し、第2条と第3条の規程に関し基本的に考え方の整理が必要かと思われるところがございます。

それは、本ネットワークが単に研究情報の収集や共有化のみを目的にするのか（現在の第2条からはそう読めます）、それとも学会が連携して何らかの仕組み作り等を目的にするのか（第3条の事業内容的にはそう読めると思います、また、6月22日の朝日新聞記事でもJ-RIMEの仕組みづくりの記事が掲載されていました）という活動の基本的なところでの整理が必要かと思われます。

（ちなみに英文名称はResearch and Informationとあり、これに合わせるなら日本名称も～研究・情報ネットワークではないかと思われます）

この点に関しては、学会連携は既に始まっていて、前回全体会議で小児防護WG、SmartCardWG、実態調査WG、広報WGがスタートしていることから、このネットワークは単に情報交換だけに留まらず能動的な活動をするものとして現実的に動いていると認識しております。この観点に立った第2条の規程改正が必要と思いますが如何でしょうか？

それとも、このネットワーク活動はあくまで情報交換に留まるべきとの考え方でしょうか？・・・もしそうなら第3条（3）と（5）は削除すべきと思われます。

3. 活動報告

3.1. 会議

3.1.1. 総会

第四回総会は2013年1月15日(火)開催とした。第五回総会は、4月に横浜で開催されるJRC2013期間中あるいは前後に開催を予定。

3.1.2. メーリングリスト

IAEAのRPOPなどの情報を、メーリングリストに随時流している。

- ・IAEA RPOP ~ No. 59

3.1.3. ホームページ

放医研のウェブにJ-RIMEホームページを作成中である。

*コンテンツ掲載の承認手続きが決まっていないため、まだ開設されていない。

3.2. ワーキンググループ

3.2.1. 小児防護WG

3.2.2. Smart Card WG

3.2.3. 実態調査WG

3.2.4. 広報WG

3.3. その他

3.3.1. ニュースレター

ニュースレター「らいむらいと」第3号を1月に発刊予定。

4. 各学会報告

4.1. 学会報告

4.1.1. 関連学会（五十音順）

- ・ 日本医学放射線学会
- ・ 日本医学物理学会
- ・ 日本核医学会
- ・ 日本核医学技術学会
- ・ 日本歯科放射線学会
- ・ 日本小児放射線学会
- ・ 日本放射線影響学会
- ・ 日本放射線技術学会
- ・ 日本放射線腫瘍学会

4.1.2. 関連団体（五十音順）

- ・ 医療放射線防護連絡協議会
- ・ 日本画像医療システム工業会
- ・ 日本放射線技師会

5. 国際動向

5.1. ICRP

5.2. UNSCEAR

- ・ 福島原子力事故報告書の作成作業中

5.3. IAEA

12月3日から7日まで、IAEA 主催 WHO 共催の” International Conference on Radiation Protection in medicine “がボンの World Conference Center Bonn (WCCB) で開催された。

5.4. WHO

WHO WORKSHOP “Radiation risk communication in paediatric imaging” が、上記 IAEA 会議の前日にボンの環境省で開催された。2001年のマラガ会議（スペイン）の後継にあたるものである。

5.5 その他

6. 参加予定者（一部オブザーバ参加）

近畿大学：	細野 眞 先生
国立保健医療科学院：	樗田尚樹 先生・山口一郎 先生
日本放射線技師会：	北村善明 先生（常務理事：調整中）
日本医学放射線学会：	中村仁信 先生（放射線防護委員会委員長）
日本放射線技術学会：	五十嵐隆之 先生（防護分科会委員）
日本核医学会：	
日本放射線腫瘍学会：	伊丹 純 先生（医療安全委員会委員長）
日本放射線影響学会：	内堀幸夫 先生
日本小児放射線学会：	宮寄 治 先生
日本歯科放射線学会：	岩井一男 先生（防護委員会委員）
日本医学物理学会：	（防護委員会委員）
日本核医学技術学会：	渡邊 浩 先生（理事長）
医療放射線防護連絡協議会：	佐々木康人 先生（会長）
日本画像医療システム工業会：	岩永明男 専務理事 伊藤友洋 放射線・線量委員会委員長 古川 浩 様、大前徳宏 様
放射線医学総合研究所	米倉義晴 理事長 放射線防護研究センター 酒井一夫・米原英典・吉永信治・神田玲子 重粒子医科学センター 唐澤久美子・米内俊祐・奥田保男・長谷川慎 医療被ばく研究プロジェクト 島田義也・赤羽恵一・青天目州晶